

会社の現況

1. 事業概況

令和6年度の我が国は、コロナ禍以前の社会状況に戻り、好調な企業業績や高い水準の賃上げなどデフレ脱却へ向けた経済活動が進む中、為替相場が円安水準で推移したことやエネルギー価格の高止まりなどによる物価上昇が続き、市民生活や企業活動などに大きな影響が生じました。

そのような中でも、冷蔵倉庫は国民生活や経済活動を支える必要不可欠な存在として、安定した保管機能を維持することが求められております。当社は川崎北部市場の冷蔵・冷凍保管機能を担い市場で取引される食料品の流通を支え、市民の皆様へ食の安全・安心を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、厳しい経営環境の状況下にあっても、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への営業活動をすることで売上の維持・向上を図り、支出面においては動力費ほか経費の抑制に努めるなど、経常利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は367,820千円（前期比103.1%）となり11,114千円の増収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、359,801千円（前期比103.4%）となり、11,775千円の増加となりました。

その結果、今期の営業利益は8,019千円（前期比92.4%）、経常利益は10,791千円（前期比96.6%）、当期純利益は10,611千円（前期比86.3%）となりました。

（1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は204,468千円で前期比103.9%となりました。一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が148,335千円で前期比101.5%となりました。

（2）凍氷部門

販売数量は692屯（前期比109.7%）で売上高15,018千円（前期比108.4%）となりました。

（3）両部門合計

売上高合計は、367,820千円（前期比103.1%）となり、11,114千円の増収となりました。

2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新1号棟	1,060 屯	
	2号棟	4,350 屯 (内超低温	1,294.6 屯)
	3号棟	10,674 屯 (内超低温	268.0 屯)
	合 計	16,084 屯 (内超低温	1,562.6 屯)

凍氷 製氷日産能力 1日当たり 20 屯

3. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は 324,132 千円で前期末に比べ 20,012 千円減少しました。また、純資産については 87,218 千円で前期末に比べて 10,611 千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は 10,611 千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも 10,611 千円減少し 112,782 千円となりました。

また、借入金については借入金総額 1,650,000 千円に対し、今期の返済額は 12,300 千円で、今期を以って完済となりました。

4. 課題

当面の課題として、老朽化が進む施設・設備の保守管理、修繕等による冷蔵冷凍機能の保全、品質維持を前提とした可能な範囲内での動力費の抑制、人材の確保・育成に向けた取り組みの継続、収支の改善などと考えています。

また、中長期的な課題として、川崎市中央卸売市場北部市場機能更新に係る基本計画に基づき実施される施設の機能更新等について、開設者や市場内事業者と連携して取り組むこと、などとなります。

5. 事業計画

川崎北部市場の市場内事業者等に冷蔵・冷凍保管機能等のサービス提供や凍氷の製造販売を行うことは当社において今後とも大変重要な事業であり、関係取引先の商品を適切な管理のもとでお預かりし、安定した経営を確保するよう努めてまいります。

また、施設・設備の保守管理を適切に実施し、北部市場の機能更新に向けた対応を開設者と協議するなど会社の課題を意識した運営を行い、将来にわたって持続した経営を実現できるよう取り組んでまいります。